

らすくなくなりぬ、此頃に至りては止しやうなり、其始はいつの頃よりかしらざれども、享保十四年己酉四月廿五日、願人共なぞはんじ物板行いたし、町々へ持廻り候儀無用に可致候旨、奈良屋にて申渡これあり、

〔塵塚談〕下當戊年十月より、淺草觀音境内奥山え、頓智なぞと云看板をかけ、盲坊主廿一二歳と見ゆるもの出たり、見物一人に付、錢十六文宛にて入る、見物人より、なぞをかけるに、更にさし支る事なし、解けずといふ事なし、若解けざる時は、掛し人へ、景物に蛇の目の傘などをくれる事也、故に見物の人景物を取らんと、なぞをかける人多し、たま／＼解ざるなぞ出る事も有よし、此者の才覺頓智なる事を感心驚ざるものはなし、奇なる盲者にて、奥州二本松の産なるよし、檢校保己一が類の奇人と云べし、